

Regional Network

JAIF TIMES

第2号

2016年10月

JAIF地域ネットワーク第14回意見交換会が開催されました



第14回意見交換会の様子だよ!



8月24日(水)愛知県名古屋市・ホテルサンルートプラザ名古屋において、今年度2回目となる「意見交換会」を開催しました。

前回の意見交換会では高レベル放射性廃棄物処分事業の進め方をテーマに充実した意見交換が行われ、本件に関する関心の高さや皆様の想いを改めて実感する場となりました。そこで、前回に引き続きNUMOと連携し、高レベル放射性廃棄物の最終処分の実現に向けて、国・NUMO等が行う広報活動や情報提供等のあり方に関して意見交換を行いました。NUMOより「科学的有望地提示後の理解活動」について説明の後、4グループに分かれ、ワークショップ形式で意見交換を実施しました。

1つ目のテーマである「NUMOの理解活動について」は“原子力全体に関する国民の理解底上げが必要ではないか”“地域性をしっかりリサーチして理解活動をはじめべき”“少人数での対話が大事”など、理解活動・働きかけについての要望など多くの意見が出されました。

2つ目のテーマ「自分たちの地域が科学的有望地になったら」については、処分事業の必要性、重要性等について理解しているつもりなので、進んで協力していきたいなど、頼もしい発言も伺え、2時間30分にわたる意見交換会は、大変有意義な場となりました。

翌25日には、日本原子力研究開発機構(JAEA)東濃地科学センター・瑞浪超深地層研究所の視察を行いました。国内各立地地域および消費地のメンバー13名他、電力会社等総勢23名の方にご参加いただきました。スカフォードという工事用エレベーターで地下300mの坑道へ下りると、そこには横に長いトンネルが広がっていました。坑道内においては「超深地層」を実感しながら、花崗岩を対象とした岩盤の強さ、地下水の流れなどの調査・研究状況について学びました。

地下300mの坑道で説明を聞いてるよ!



メンバーの活動ご紹介

「紫陽花の会なとわ」主催講演会概要



山本氏の講演を熱心に聴講

去る7月19日に青森県弘前市立百石町展示館において、「紫陽花の会なとわ」主催の講演会が開催されました。

当日は、JAIF地域ネットワークのメンバーである福島県富岡町 商工会 会長 山本育男氏から『福島の現状・復興に向けて ～富岡町の現状から～』と題し、ご講演いただきました。

同町は人口約16,000人でまだ9割以上が避難生活を余儀なくされています。講師の山本氏も避難生活を送られているお一人です。

講演では、震災直後と現在の町の状況を写真で紹介。災害公営住宅の整備や複合商業施設の再開など、2017年4月の帰還開始(目標)に向けた復興計画が進んでいることをお話いただきました。

参加した会員他40名は、いまだ避難生活を続ける富岡町の現状を生々の声で伺い、福島の現状について学びました。

メンバー紹介



会員数：25名(平成28年7月30日現在)

設立のきっかけは：

東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故以来、多くの方がエネルギーや原子力、特に放射線について関心を持つようになりました。そしてTV、新聞、雑誌などで多くの情報が流されていますが、基本的な知識もない方々は、その情報により必要以上に不安や不信感や拒否感を持ってしまいます。

私達の住む弘前地区は、原子力施設がある六ヶ所村・東通村・むつ市からは遠く、原子力や放射線には関心の薄い人が多いように思います。

協力するから学ぶ機会が欲しい・・・との友人の声に押されて平成27年4月末に「紫陽花の会なとわ」を結成致しました。結成時は十人程だった会員も、勉強会や見学会に参加して「初めて放射線の事を知りました。仲間に入りたい！！」という方が少しずつ増えました。夫婦で会員になった方もいます。

大きな事は出来ませんが、一人でも多くの方達に正しい知識を知ってもらう為のお手伝いになればと思っています。

会の名称：環境とエネルギーを考える 紫陽花の会なとわ

津軽弁で「な」と言うのはあなた、「わ」と言うのは私と言う意味で、なとわは、「あなた」と「わたし」という意味です。

紫陽花の花言葉は、①元気な女性 ②辛抱強い愛情 ③一家団欒、家族の結びつき = 和を意味します。

紫陽花の花は、小さな花びらが寄り集まって咲いています。紫陽花の花の色のように、色々な人達が集まり元気に仲良く学んで行きましょう！！という事で、「紫陽花の会なとわ」になりました。



原子力発電環境整備機構 (略称：NUMO「ニューモ」)のご紹介

マスコットキャラクターの
ゲームです！
NUMOの広報活動や対話活動で
活躍中です！



皆さん、こんにちは！

NUMOは、原子力発電により発生する使用済燃料をリサイクル(再処理)した後に残る、高レベル放射性廃棄物等の安全・確実な最終処分(地層処分)事業を行います。地層処分は、高レベル放射性廃棄物等を長期にわたり私たちの生活環境から隔離するため、地下300mより深い安定した地層(岩盤)の中に処分する方法です。くわしくは、インターネットやFacebookで「NUMO」と検索してみてくださいね！

お耳を拝借・・・食の境界線

“メンチかつ” VS “ミンチかつ”

同じものなのに、“メンチカツ”と呼ぶ地域と“ミンチカツ”と呼ぶ地域があるらしい。

「たべもの起源事典」によると、メンチカツについて「ミンスカツ、メンチコロッケとも言う」と書く。ミンス(mince)は肉や野菜を細かく刻むこと。Mincerで肉挽器となる。「豚肉で作るかつを、とんかつと呼ぶように、ミンスカツ→メンチカツと洒落たもの」なのだそう。

ちなみにミンチカツとは、ミンチで作るカツだからだそう。関西では「メンチ切る」と言うと、人を睨みつける、ガンを飛ばすと同じガラの悪い言葉やから、“メンチ”は使わへん、そうです。

JAIF地域NWノムリエ



事務所移転のお知らせ

原産協会は、11月7日(月)より、下記へ移転します。

住所：東京都千代田区二番町11-19 興和二番町ビル5階
電話番号：03-6256-9314(地域交流部)